

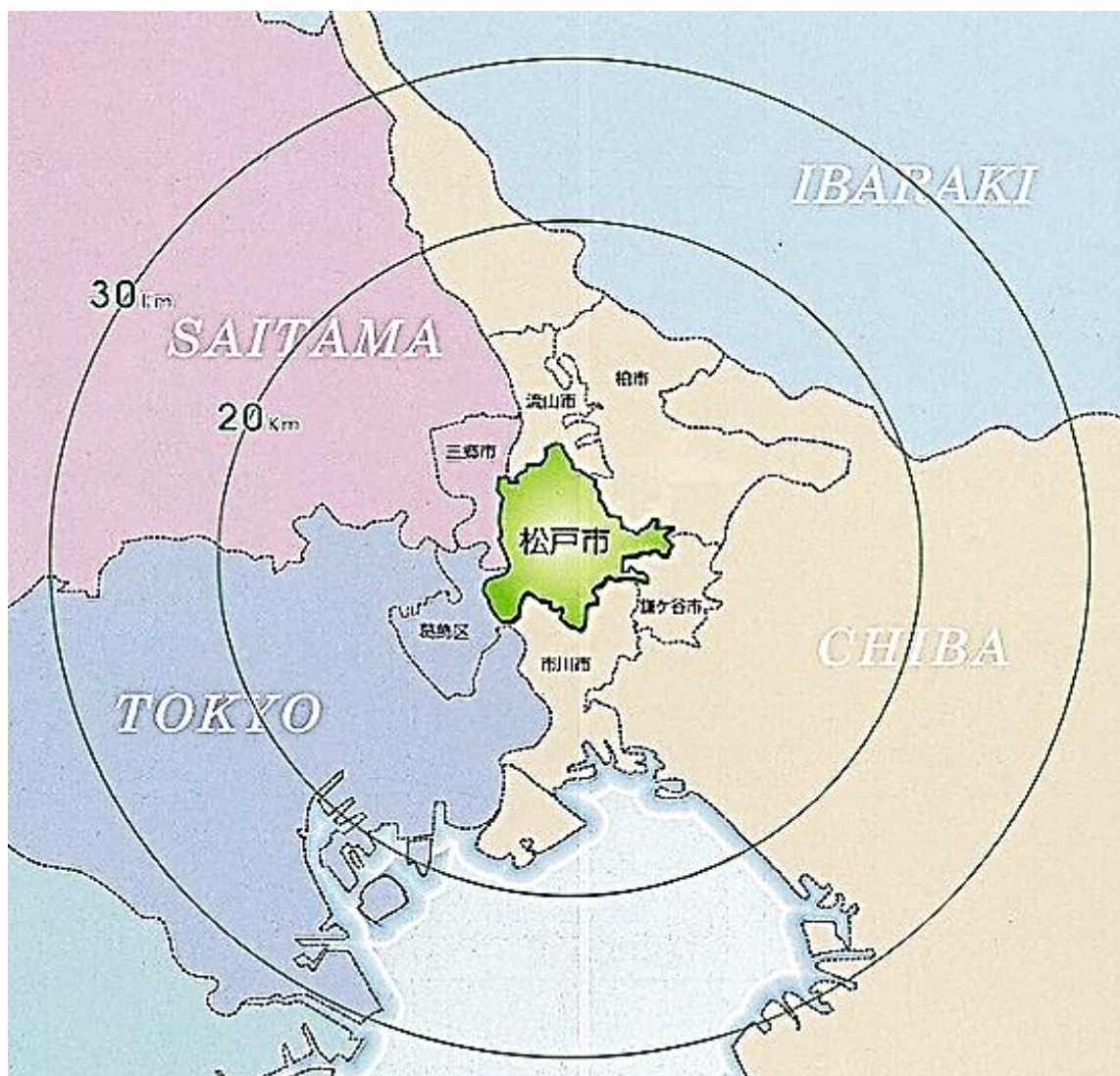
1 松戸市の概要

1. 松戸市の概要

概 要

ア. 位置

松戸市は千葉県北西部に位置し、西は江戸川を境に東京都葛飾区、埼玉県三郷市に接し、南は市川市、東に鎌ヶ谷市、東から北にかけて柏市、流山市と接しています。



資料：松戸市総合計画を基に作成

面積	61.38 km ²
東西延長	11.4 km
南北延長	11.5 km

市役所の位置

北緯	35度47分
東経	139度54分

イ. 人口及び世帯数

本市は都心から 20 km 圏に位置し、都心への通勤時間が 40 分程度という地理的条件に恵まれています。昭和 18 年の市制施行当時 4 万人だった人口も、昭和 30 年の新京成電鉄（松戸～津田沼）開通による市域内陸部の交通近代化の実現、昭和 35 年の日本住宅公団常盤平団地入居開始等により、昭和 36 年から 54 年までは毎年 1 万人以上の増加が見られました。

昭和 55 年には 40 万人をこえ、首都圏の典型的な住宅都市として発展しています。

松戸市の人口及び世帯数の推移

年	人口	世帯数
昭和 30. 10. 1	68,363	13,875
35. 10. 1	86,372	19,656
40. 10. 1	160,001	41,913
45. 10. 1	253,591	70,829
50. 10. 1	344,558	102,830
55. 10. 1	400,863	128,974
60. 10. 1	427,473	139,855
平成 2. 10. 1	456,210	160,724
7. 10. 1	461,503	172,119
12. 10. 1	464,841	182,703
17. 10. 1	472,579	192,962
22. 10. 1	484,457	209,570
27. 10. 1	483,480	215,627

ウ. まちづくり（都市計画）

松戸市は、急激に膨張する首都東京の住宅需要の受け皿として、新しい市民が全国から移り住み、激しい人口移動と増加を繰り返し、それとともに高度成長期前後から鉄道沿線周辺を主体に、独立行政法人都市再生機構による団地開発や、土地区画整理事業等の面的整備により新たな住宅地が整備され、市街地の拡大をしてきました。

その後、団地や土地区画整理事業地周辺に小規模な面的整備が多数行われ、全国でも有数な生活都市として大きな発展をとげてきました。このような激しい人口変動の対応に追われた時期からは、ようやく人口増加も落ち着き、生活都市として成熟期を迎えつつあります。特に市街化区域内の土地区画整理事業を積極的に進め、多くの公共施設の整備と健全なる市街地の育成がなされたところです。

このような状況の中、都市計画法及び建築基準法が改正され、平成 8 年、適切な住環境を誘導するため、用途地域は従来の 8 種類から 12 種類に細分化され、平成 30 年には、新たに田園住居地域が追加され、13 種類になっています。（本市はそのうち 11 種類の用途地域を指定）

そして、「住んでよいまち、訪ねてよいまち」となるような、理想の地域づくりを目指して、明日への計画的な住み良い街づくりをしています。

松戸市の都市計画区域区分

	面積 (ha)	割合 (%)
市街化区域	4,444	72.5
市街化調整区域	1,689	27.5
計	6,133	100.0

用途地域（平成 31 年 4 月 1 日現在）

種類	面積 (ha)	割合 (%)
第一種低層住居専用地域	1,837	41.3
第二種低層住居専用地域	31	0.7
第一種中高層住居専用地域	680	15.3
第二種中高層住居専用地域	43	1.0
第一種住居地域	957	21.5
第二種住居地域	237	5.3
準住居地域	63	1.4
近隣商業地域	145	3.3
商業地域	101	2.3
準工業地域	200	4.5
工業専用地域	150	3.4
計	4,444	100.0

エ. 松戸市の歴史

- 明治2年 小金牧開墾開始。
- 明治5年 松戸郵便取扱所、小金郵便取扱所開設。
- 明治11年 東葛飾郡役所、松戸警察署設置。
- 明治22年 松戸町誕生（松戸村・矢切村合併、人口約4,000人）。
- 明治29年 日本鉄道株式会社海岸線（常磐線）田端～土浦間開通。松戸駅開設。
- 明治31年 常磐線全線開通。
- 明治42年 県立園芸専門学校（現千葉大学園芸学部）設立。
- 明治44年 北小金駅開設、葛飾橋架設。
- 大正5年 流山鉄道開通。
- 大正8年 松戸実科等女学校（県立松戸高等学校）設立。
陸軍工兵学校が相模台（現・中央公園）に開設
- 大正9年 国道6号線道路認定。
- 大正12年 北総鉄道（東武鉄道）船橋～野田間開通。
- 昭和2年 葛飾橋（鉄橋）架設。
- 昭和8年 明村と合併（人口15,669人）。
- 昭和10年 都営八柱霊園開設。
- 昭和11年 常磐線上野～松戸間電化。
- 昭和13年 八柱村と合併（人口21,506人）。
- 昭和14年 千葉県松戸保健所設立。
- 昭和15年 中央航空乗員養成所松戸飛行場が開設される。
- 昭和17年 国立診療所松戸病院設置。
- 昭和18年 松戸町、高木村、馬橋村合併、市制施行（人口40,433人）。
- 昭和20年 上野～松戸間旅客激増につき5両編成になる。
- 昭和24年 千葉農業専門学校が千葉大学園芸学部となる。
常磐線松戸～取手間電化。
- 昭和25年 馬橋万満寺の木造金剛力士像が国重要文化財に指定。
- 昭和27年 北松戸駅、競輪場開催日駐車場の仮駅として開設。松戸駅東口開設。
- 昭和29年 小金町と合併（人口65,000人）。
- 昭和30年 新京成電鉄松戸～津田沼間開通。
- 昭和31年 沼南村高柳地区の一部を松戸市に編入（人口70,000人）。
- 昭和33年 北松戸駅が常設駅として開設。
- 昭和34年 市役所が現在地に移転し、旧庁舎を公民館として使用。
- 昭和35年 金ヶ作下水処理場（常盤平衛生処理場）操業開始。
日本住宅公団常盤平団地完成。
稔台と北松戸に工業団地造成。
- 昭和36年 国道6号線松戸バイパス完成。
- 昭和37年 市営小金水道の給水開始。
七右衛門新田に塵芥焼却場完成。
松飛台工業団地造成。
- 昭和39年 市民会館完成。県の出先機関東葛飾支庁が開設。

1. 松戸市の概要

- 昭和40年 金ケ作下水終末処理場に、し尿投入施設が完成。
常盤平第二、稔台小が開校。県立小金高校が開校。聖徳学園短大が開校。
- 昭和41年 市の人口が17万人を突破。
千葉県柏保健所が新設され、千葉県松戸保健所の管轄は松戸市1市となる。
- 昭和42年 金ケ作し尿処理場が全面操業開始。
国保松戸市立病院が小山から上本郷に移転。
常盤平第三小、常盤平中が開校。
- 昭和43年 人口20万人を突破する。
八ヶ崎に公設総合卸売市場を開設。上本郷小、小金北小が開校。
- 昭和44年 すぐやる課が誕生。
小金原団地入居開始。根木内、栗ヶ沢、松飛台小が開校。
- 昭和45年 ごみ収集が週3回になり、不燃物収集も始まる。松ヶ丘小が開校。
- 昭和46年 常磐線複々線化完成、千代田線相互乗入開始。松戸駅新駅舎完成。
住宅都市整備公団小金原団地完成。
ボックスヒル市と、姉妹都市提携を結ぶ。
柿ノ木台、古ヶ崎、六実、八ヶ崎小が開校。日本大学松戸歯学部開校。
- 昭和47年 梨香台小、寒風台小が開校。
- 昭和48年 武蔵野線新松戸～府中本町間開通。県立松戸東高等学校開校。
人口30万人突破。
- 昭和49年 第1次総合5か年計画スタート。
松戸市まちづくり指導要綱実施（中高層建物等の整備基準）。
河原塚小が開校。伊勢丹松戸店開店。
- 昭和50年 市立松戸高等学校開校。和名ヶ谷小、旭町小、牧野原小が開校。
住宅都市整備公団牧の原団地、梨香台団地完成。
- 昭和51年 上矢切に総合福祉館開館、北松戸に運動公園完成。
貝の花小、金ヶ作小、馬橋北小、殿平賀小が開校。
- 昭和52年 竹ヶ花に市衛生会館が完成。
21世紀を目指した松戸市長期構想発表。
横須賀小、八ヶ崎第二小、六実第二小が開校。
- 昭和53年 ごみの4種類分別収集が始まる。
武蔵野線新松戸～西船橋間開通。
新松戸南小、松飛台第二小、上本郷第二小が開校。松戸六実高校開校。
- 昭和54年 第2次総合5か年計画スタート。
北総線の松戸駅暫定乗入開始。
根木内東小が開校。松戸矢切高校開校。六実支所が完成。
- 昭和55年 クリーンセンター（体育館、プールなど含む）完成。
人口40万人突破。馬橋支所開所。新松戸北小が開校。松戸馬橋高校開校。
- 昭和56年 東部クリーンセンター完成、資源リサイクルセンター完成。
市民劇場オープン。新松戸支所開所。大橋小、六実第三小が開校。
- 昭和57年 北千葉導水路の坂川排水機場完成。矢切支所開所。古ヶ崎南小が開校。
- 昭和58年 市役所の窓口業務がオンラインになる。

- 東部支所が開所。幸谷小が開校。県立松戸秋山高等学校開校。
- 昭和59年 第3次総合5か年計画スタート。
- 昭和60年 松戸駅東口歩行者専用路橋工事完成。松戸駅西口地下駐車場供用開始。
- 昭和61年 松戸駅西口高架遊歩道が完成。
24時間安心の夜間急病救急医療システムがスタート。
戸定邸の庭園が県の名勝に指定される。
- 昭和62年 県立西部図書館が開館。
「常盤平さくら通り」が日本の道百選に。
新松戸西小が開校。
- 昭和63年 市営白井聖地公園が第1回公募。
日暮クリーンセンターが完成。
房総の魅力500選に「矢切の渡し」など13点が入選。
坂川が国の「ふるさとの川モデル河川事業」のモデル川に。
- 平成元年 第4次総合5か年計画がスタート。
- 平成2年 中学校給食が2校で始まる。
武蔵野線の東京駅乗入開始。
- 平成3年 北総線千葉ニュータウン中央～京成高砂間開通。
戸定が丘歴史公園オープン。
- 平成4年 市役所が完全土曜閉庁に。
「川をきれいにする条例」制定。生活排水対策指導員制度を開始。
- 平成5年 松戸市民憲章を制定。
21世紀の森と広場オープン。市立博物館が開館。
福祉医療センター東松戸病院診療開始。中央保健センターオープン。
文化会館（森のホール21）が開館。
「川をきれいにする推進本部」設置。
- 平成6年 第5次総合5か年計画がスタート。
国分川分水路完成。
松戸市行政リストラ市民会議が発足。
「常盤平けやき通り」が新・日本街路樹百景に。
幸田貝塚出土品が国の重要文化財に指定。
- 平成7年 阪神大震災で、松戸市の連続自動給水車等が大活躍。
選挙区が南北二つに分かれる。公文書公開制度スタート。
和名ヶ谷クリーンセンター完成。
- 平成8年 松戸市行政リストラ実施計画に基づき機構改革を行う。
和名ヶ谷スポーツセンターオープン。
ホワイトホース市と姉妹都市提携の再調印を結ぶ。
江戸川・坂川清流ルネッサンス21（水環境改善緊急行動計画）開始。
- 平成9年 大谷口歴史公園オープン。柳原排水機場完成。
- 平成10年 武蔵野線東松戸駅開設。
新たな「松戸市総合計画」を策定し、4月よりスタート。
健康福祉会館（ふれあい22）オープン。千葉県西部防災センターオープン。

1. 松戸市の概要

- 流水保全水路（ふれあい松戸川）が完成。
- 平成11年 「松戸市役所エコオフィス行動プラン」を策定し、4月よりスタート。
身近な環境を市民が調査する「生きもの調査」事業を開始。
- 平成12年 地方分権をふまえて機構改革により「本部制」の導入。
「介護保険制度」4月よりスタート。
- 平成13年 「松戸市における宅地開発事業等に関する条例」の制定。
江戸川・坂川清流ルネッサンスⅡ（第二期水環境改善緊急行動計画）開始。
- 平成14年 パートナー講座開設。
根木内こども館がオープン。
- 平成15年 市制施行60周年
総合計画の第2次実施計画がスタート。
- 平成16年 「松戸みどりの市民憲章」が制定される。
「松戸市安全で快適なまちづくり条例」の施行。
- 平成17年 「松戸市安全で快適なまちづくり条例」に基づく過料徴収開始。
- 平成18年 根木内歴史公園開園
旧徳川家松戸戸定邸が国の重要文化財に指定される。
松戸市シニア交流センターがオープン。
- 平成19年 東松戸ゆいの花公園開園、水辺のエコロード事業完成。
- 平成20年 栗山特別緑地保全地区が都市計画決定される。
松戸市出身の山崎直子さんが宇宙へ。
- 平成21年 新松戸未来館開所
- 平成22年 京成電鉄（成田スカイアクセス）京成高砂～成田空港間開通。
アクセス特急が東松戸駅に停車。
- 平成23年 矢切特別緑地保全地区が都市計画決定される。
「松戸市景観計画」の策定。
「松戸市景観条例」の施行。
江戸川・坂川清流ルネッサンスⅡ最終の「地域協議会」で、
（江戸川中流部及び坂川河川網）水環境復活宣言が採択される。
- 平成24年 「松戸市空き家等の適正管理に関する条例」の施行。
- 平成25年 幸谷特別緑地保全地区が都市計画決定される。
- 平成26年 矢切特別緑地保全地区が都市計画変更される。
- 平成27年 旧徳川昭武庭園（戸定邸庭園）が国の名勝に指定される。
専修大学松戸高等学校野球部が松戸勢として初めて甲子園に出場。
- 平成28年 東松戸小学校新設
矢切特別緑地保全地区が都市計画変更される。
「松戸市空き家等対策の推進に関する条例」の全部改正
松戸市市民交流会館開館
- 平成29年 松戸市立総合医療センター開院
- 平成30年 東京外かく環状道路（外環）千葉区間開通